

松山町古図／故 山邊誠一氏贈
(宇陀市教育委員会蔵)



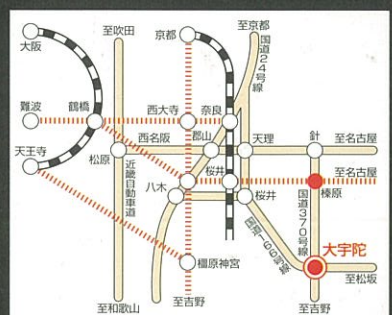
観覧料〈常設展示〉

区分	個人	団体(15人以上)
大人	300円	200円
小人	150円	100円

※小人は小・中学生とする

開館時間
午前10時から午後4時まで

休館日
毎週月・火曜日、
但し、祝休日の場合は開館
水(木曜日) 曜日を休館
12月15日～1月15日



近鉄大阪線榛原駅から奈良交通バス大宇陀行乗車約15分、西山もしくは大宇陀高校バス停下車、東へ徒歩約10分。
お車で、国道25号線針インターから国道370号線で約30分。

宇陀市歴史文化館「薬の館」
〒633-2174
奈良県宇陀市大宇陀上2003番地
TEL.0745-83-3988

編集・発行＝宇陀市教育委員会
宇陀市歴史文化館
写真撮影＝佐藤 右文

宇陀市歴史文化館

(宇陀市指定文化財・旧細川家住宅)

「薬の館」



薬の館(旧細川家住宅)：銅板葺唐破風附看板

Uda City Historical Museum,
"Kusuri-no-Yakata"



薬の館(旧細川家住宅)：外観

宇陀市歴史文化館「薬の館」

(宇陀市指定文化財・旧細川家住宅)

青垣めぐる大和盆地の東方に位置する宇陀市大宇陀は、古代には「阿騎野」と呼ばれ、宮廷の薬猟の地とされた所です。『日本書紀』には、推古19年(611)5月5日に薬猟が行われたことが記録されています。

時代は下り江戸時代中期、享保14年(1729)、森野賽郭翁により薬園が開かれ、250年以上の時を経た現在も「史跡森野旧薬園」として継承されています。細川家もまた薬問屋でありました。文化3年(1806)細川家は、薬商となり、天保7年(1835)、人参五臓丸・天寿丸という腹薬を販売しました。当館正面の「銅板葺唐破風附看板」は、往時の繁栄を今に伝えています。また、細川家二代目「治助」の二女「満津」の長男「友吉」は、明治15年(1882)藤沢家の養子となり、藤沢薬品工業株式会社(現アステラス製薬株式会社)を創設しました。

この旧細川家住宅は、江戸時代末期の建築と推定されます。江戸期に殷賑をきわめた商家町松山の面影を残す建造物として、平成4年に旧大宇陀町指定文化財に指定され、大宇陀町歴史文化館「薬の館」として開館しました。平成18年1月からは町村合併により宇陀市歴史文化館「薬の館」となりました。当館では、大宇陀に残る薬関係の資料をはじめ、細川家関係の資料を展示しています。



▲薬の館(旧細川家住宅):カマド周辺



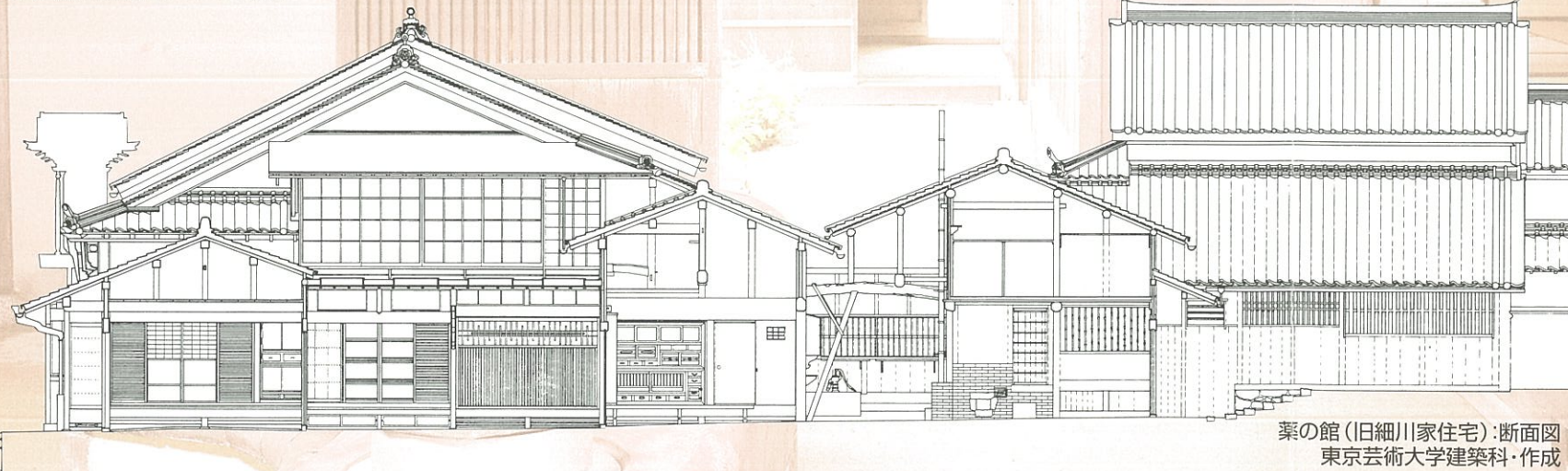
▲薬の館(旧細川家住宅):内部



▲薬の館(旧細川家住宅):内部



▲薬の館(旧細川家住宅):薬看板展示コーナー



薬の館(旧細川家住宅):断面図
東京芸術大学建築科・作成



(蔵などの2階部分は省略する。)

薬の館(旧細川家住宅):平面図

展示の概要

●薬関係資料コーナー

当館の1階座敷を中心として、松山地区に残る薬関係の資料を展示公開しています。

●藤沢薬品コーナー

一の蔵では、細川家と藤沢家の出会い～初代社長友吉翁の実績(樟腦の開発～樟樹増殖などの社会貢献)などの資料を展示公開しています。また、二の蔵では、二代社長の実績～海外雄飛～昭和の医薬品産業などの資料を、三の蔵では、三代社長の実績～社会貢献に関する資料をはじめ、藤沢薬品工業株式会社が開発してきた代表的な薬品のパッケージなどを展示公開しています。

●細川家ゆかりのコーナー

薬問屋から資本主義経済の基盤を担う役目を果たした金融業など、細川家にまつわるゆかりの品を展示公開しています。

●その他

当館入り口の受付では、大宇陀の観光案内を行っています。